観光ボランティアガイドつるが　広報誌　第4[illegible]　　令和6年1月1日発行

ゆりかもめ

yurikamome

霜月の早朝、柴田氏庭園の書院から朝陽が照らす野坂を望む。

巻　頭　言　　敦賀市長　　米澤　光治

新年あけましておめでとうございます。

皆様には、輝かしい新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

さて、いよいよ本年三月十六日、百年に一度の好機と言われる北陸新幹線敦賀開業を控え、準備も大詰めとなってまいりました。

開業に向け、既に中心市街地の玄関口となる敦賀駅西地区には「otta」が誕生し大きな賑わいを見せており、また、敦賀駅東口駅前広場では、関係工事が順調に進捗しています。

市内においても、カウントダウンイベント開催や誘客キャッチコピー「敦賀、発見！」ロゴマークの決定、市内装飾など、街全体に新幹線開業に対する気運が高まってきたと感じているところです。

ただ、新幹線開業がゴールではなく、新たなスタートです。開業後も、官民一体・オール敦賀の活動を持続し、全力でまちづくりに取り組んでいきたいと考えております。

そうしたまちづくりを行い、北陸新幹線で敦賀にお越しになったお客さまに敦賀の魅力を感じていただき、心から楽しんでいただくためには、観光に携わる皆様、そして市民一人ひとりのお力が必要不可欠となります。

あたらしい敦賀のため、本年も変わらぬお力添えを賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

皆様にとりまして、本年が素晴らしい年となりますことを心からお祈り申し上げ、新年の挨拶といたします。

ごあいさつ　　柴田氏庭園を守る会　　会長　木下　靖

初めまして。「柴田氏庭園を守る会」会長の木下靖です。

このたび「名勝柴田氏庭園（甘棠館）」がリニューアルオープンしました。建物の傷みがひどかったのですが、修復工事に約七年あまりの月日をかけ、当時の面影を取り戻しました。

「柴田氏庭園」ですが別名「甘棠館」ともいい、甘棠とは実を付ける樹木でズミ、ヤマナシとされていますが柴田氏庭園ではヤマモモと伝わっています。

歴史については、戦国時代の終わりから江戸時代にかけて、黒河川の氾濫により粟野地区の田畑に土砂が流れ込み大被害を受け寛永四年（一六二七年）に市野々一帯の人々が逃散するまでになりました。

そこで野坂の豪農であった柴田権右衛門が小浜藩に願い出て、自費で農民を集め一帯の再開発に乗り出すこととなり以後、権右衛門の息子権七郎清信が引き継ぎ貞享元年（一六八四年）に検地を受け新しい市野々村が成立し治めたものです。

庭園については、屋敷内に庭園が築かれた年代が書院に正徳年中初（一七一一～一七一五年）建立と墨書きがあり、また、書院については、小浜藩主の休憩所として使用され、そこからの眺望は、敦賀富士とも称される野坂山の雄大な姿を望み、四季折々の景色をたのしめますのでその都度ご来館下されば幸いです。

INFORMATIONs

☆敦賀市立博物館

○ 新春美術展　「辰年　～敦博の龍たち～」　　１月４日(木)～２月12日(月)

2024年は辰年です。それにちなんで、敦賀市立博物館の絵画コレクションから、龍に関する作品が展示されます。

○ 寄贈絵画展　「柴田邦彦展」　　１月４日(木)～３月10日(日)

敦賀市を拠点に活動する画家・柴田邦彦氏より敦賀市立博物館に寄贈された水彩画や大型作品が展示されます。

☆福井県立歴史博物館

○ 写真展「平安の救いの姿～福井の歴史と文化をめぐる　福井県の指定文化財～」　～2024年５月７日（火）

平安時代に活躍した紫式部に注目が集まる時期にあわせて、10世紀後半から11世紀前半に作られ、福井県内に大切に伝えられた平安時代の仏像と寺院を紹介する写真展です。

ガイドの依頼・問合せ

ガイドの依頼及び問合せは、敦賀観光協会にて受付けています。申込み用紙は、下記のアドレス（敦賀観光案内サイト漫遊敦賀）からダウンロードし、必要事項を記入していただいた後、敦賀観光協会宛てにお送りください。

敦賀観光協会　TEL　0770－22－8167
FAX　0770－22－8197
https://www.turuga.org

ガイドメンバー募集中

観光ボランティアガイドつるがは、随時メンバーを募集しています。敦賀のことをもっと知りたい方、観光に来られた方に紹介したい方、人と接するのが好きな方、入会に制限はありません。下記の連絡先までお気軽にお問い合わせ下さい。

ボランティアガイドつるが　TEL　0770－21－0056
敦賀観光協会　TEL　0770－22－8167

編集後記

リニューアルオープンした柴田氏庭園、皆さんはもう行かれましたか？

小浜藩主になったつもりで、書院の鶴の間に座って、綺麗に整備されている庭園を眺めていると心も落ち着きます。

夏は今ほど暑くないかもしれませんが、冬は今と同じように寒かったと思われ、火鉢だけで息が白くなる実家の座敷を思い出していました。

柴田さんも、ここで野坂山に積もる雪を眺めながら、地区の農民の皆さんを集めて、春からの農作業の準備を段取りしていたのでしょうか。

この庭園は、関係者が整備復元を進め、今は「柴田氏庭園を守る会」の皆さんが来館者を優しく迎えてくれ、庭園も綺麗に清掃されています。

庭を清掃されている方とお話ししましたが、「箒で掃く前の庭一面を埋めつくす紅葉も綺麗な景色で、私たちの楽しみなんですよ。役得ですね」と撮影された写真も見せていただきました。

そんなお気持ちで清掃にも携わっていただいていることに感謝を申し上げ、心清々しく帰ってきました。（将）

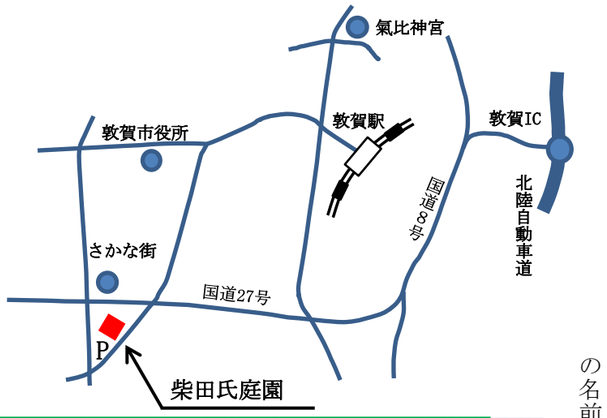
発行者：観光ボランティアガイドつるが　　連絡先：〒914-0079 福井県敦賀市港町1-25 敦賀鉄道資料館　TEL・FAX 0770-21-0056

観光スポット紹介

敦賀のみどころ ⑨ 国指定名勝 柴田氏庭園

柴田氏庭園は、江戸時代に小浜藩の命を受け市野々の新田開発にあたった豪農、柴田権右衛門が小浜藩主をもてなすために築いた庭園です。この庭園と合わせて簡素な書院造りの建物があり、平成19年には屋敷地全体が国の名勝に指定されているほか、市指定記念物ともなっており、芸術的・歴史的価値を高く評価された貴重な文化財です。

敦賀の名峰・野坂山を借景にした庭園と書院造りの建物が落ち着いた空間をつくり出しています。（森　将臣）



庭園の特徴

柴田氏庭園の最大の特徴は、豪農であったとはいえ、周囲を堀が取り囲み、美しい庭園や冠木門、書院などを備えた「武家風」の屋敷構えを持っている点にあります。

冠木門は、諸大名家の外門などにも用いられたものであり、また、書院は、室町時代に始まり桃山時代に完成した武家住宅の様式で、座敷に床の間、違い棚、附書院などを備えています。

「甘棠園」と「甘棠館」

庭園は、築山回遊式林泉庭園で、中国の『詩経』からその名前をとり、庭園を「甘棠（かんとう）園」、建物は「甘棠館」と呼ばれています。

庄屋であった柴田氏は、この地方の農民に対して、詩経の「甘棠の愛」にあやかって善政を心がけ、ヤマモモを植えて、甘棠園と名付けたと伝わります。

この庭園は、野坂山を借景として鑑賞上の価値は高く、周りに堀をめぐらした屋敷地の一画を利用して作られており、庭園と屋敷地を一体的に保護するために、平成19年、屋敷地全体が国の名勝に指定されました。

また、建物跡や堀、石垣などを含む屋敷地全体は敦賀市の史跡として、屋敷地内のヤマモモ、クスノキは市の天然記念物に指定されています。

令和4年度までの整備事業によって屋敷「甘棠館」の座敷から庭園「甘棠園」の眺望を楽しめるよう、建物、庭園の修復が行われました。

冠木門（かぶきもん）

柴田氏庭園の入り口には地元で「柴田の黒門」と呼ばれている堂々とした門があります。冠木門と呼ばれる形式で幅約3m、高さ約4m、本柱の上に小さな屋根が付き、冠木の上の笠木とともに銅板で覆われています。この門は凝った意匠をしていて、元々は扉があったようですが、傷んだ本柱を交換して、礎石を笏谷石の切石に取り替えた際、扉を取り付けない門に改造されたと推測されています。↖

↘ 令和3年に行われた修復工事では、修理のための調査によって元々は銅板葺であったこと、表面は石黒色系の塗料が使われていたことが判明したことから、全体の形状を踏襲しつつ、細部は本来の材料を用いて復元されています。

柴田氏屋敷書院

書院は、書院小屋裏の墨書に「正徳年中初建立　再興文化二年」とあり、1711～15年頃に建立、1805年に改修されたことがわかり、現在の書院は改修時の姿を残していると推定されています。

鶴の間

鶴の間は書院の中で最も格式の高い部屋で、小浜藩主の休憩所として使われ、欄間には藩主である酒井家の家紋の「剣片喰」が配されています。

鶴の間は、他の部屋より一断高い上段の間となっており、庭を眺める間であり、黒漆塗の格天井となっています。

鶴の間にしつらえられた附書院は、鳥居形の木組を前面にあしらった書院窓が特徴です。柴田家にとって野坂山は出身地の氏神でもあり、この書院から野坂山を遥拝したと伝えられています。

式台、亀の間と松の間

式台は、書院に立寄る小浜藩主の入口であり、その奥につながる亀の間は13畳の広間で、その庭園側に松の間があり、後の時代にはここからの庭の眺望も整備されました。

写真上は式台、写真下右手が亀の間、正面奥が鶴の間

ガイドつるがの取組み紹介

県外研修　杉原千畝と松尾芭蕉を訪ねて

11月15日、ガイドつるが令和5年度の県外研修を行いました。研修先は、岐阜県八百津町の「杉原千畝記念館」と岐阜県大垣市の「奥の細道結びの地記念館」でした。

敦賀を朝出発して、夕方に帰省するという内容で、2ヶ所を回るには少々タイトなスケジュールとなりましたが、それぞれの記念館では、学芸員などの専門家の案内があり、充実した研修となりました。

「杉原千畝記念館」では、館長より、杉原氏の生い立ちやその後の人生、またホロコーストに関する説明などもあり、「人道の港敦賀ムゼウム」での今後の説明にも生かしていきたい内容でした。

一方、「奥の細道結びの地記念館」では、学芸員から、芭蕉の人物像や旅に生きた人生の紹介がありました。敦賀では、奥の細道の杖措きの地として皆さんに説明していますが、大垣での取組みを拝見して、更に詳しく説明していくことも、また、敦賀が杖措きの地であることを一層広く説明していくための場所を整備することも重要ではないかと強く感じました。

杉原千畝記念館

「鉄道カフェ」の開催

12月2日、松原公民館にて、「港と鉄道の街つるが」を広く市民の皆様に知っていただくことを目的として鉄道カフェを開催しました。

今回は、日本遺産に認定されている「海を越えた鉄道～世界につながる鉄路のキセキ～」を深堀するとして、ガイドつるが増田会長から紹介があり、33名の参加者の皆さまは熱心に聴講していました。

今回は、長浜から敦賀の区間について、それぞれの駅の歴史や関連する産業、経路となったトンネルの石額や石碑、この区間に携わった人物などについて、様々なトピックスも交えて説明がありました。

また、この区間を走る蒸気機関車の活躍する様子を紹介したDVDの放映もあり、参加者の皆さんも満足されている様子でした。

次回の鉄道カフェは、3月9日（土）に「日本遺産の深堀り②」として開催を予定しています。皆さまのご参加をお待ちしています。